

術前訪問の充実を図るために ～イラストを活用したファイルによる訪問を試みて～

川村 友理 山口久美子 沖藤 りえ 山舘 正樹
村上 絹江 上西 敏一 小野寺英子

はじめに

当手術室では、平成10年より写真を印刷したパンフレットを使用し術前訪問を行ってきたが、かえって不安や恐怖心を与えてしまう結果となった。

そこで今回 (1) 写真をイラストレーションに換えた、(2) パンフレットの配布を止め、イラストをファイルしたもの (以下ファイル形式とする) へ変更した、(3) 術前訪問は患者の希望による方式に変更した。

これらの変更につき、イラストを使用したファイルの内容及び訪問方法を評価する目的でアンケート調査を行ったので報告する。

研究期間

平成11年7月27日～平成11年10月8日

方法

対象は外来手術患者を除く全ての入院手術患者で術前訪問やファイル形式の内容を評価可能と思われる原則16歳以上とした。

前回のパンフレットの中で写真を利用した結果、不安や恐怖心を与えてしまった為、少しでも患者に柔らかいイメージを与えるものと考え、カラーのイラストを使用した。又、パンフレットを

配布していた事が患者にとって必要であったかを考えたところ、病棟のパンフレットと重複している箇所がある点、再度読み返すことがあったかという点に着目し、手元に残るパンフレットの配布をやめファイル形式とした。ファイルの大きさはA4版で、手術室入室から退室までをカラーのイラストで表し、全ての手術に対応できるものを6冊用意した。

訪問は、新たに作成した術前訪問希望用紙を各病棟に配布し、希望のある患者に対し手術前日に患者のベッドサイドで行った。希望しない患者は、カルテから情報収集のみを行い、その理由に対してアンケートを行った。

訪問内容は、ファイル形式のものに沿って処置等の説明をし、質問等があれば口頭で返答した。訪問で得た情報は術前訪問表に記載し、その患者の手術につく看護スタッフが患者入室前に目を通し、情報の共有ができるようにした。又、手術室退室時、病棟看護婦に術前訪問を希望した患者へ術後アンケートを渡してもらうよう依頼し、そのアンケートより術前訪問に対する評価を行った。

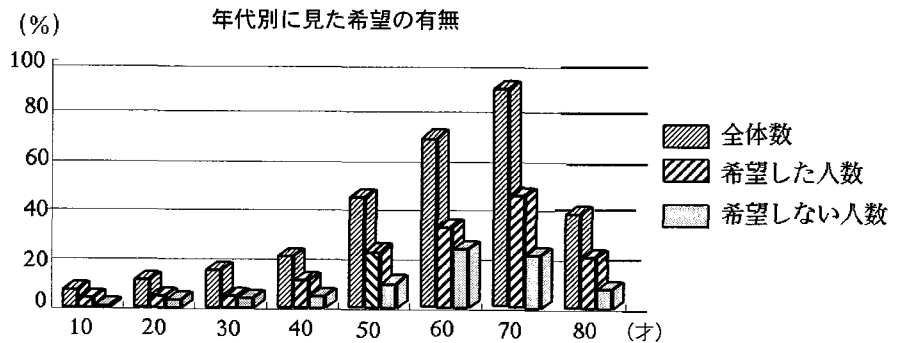
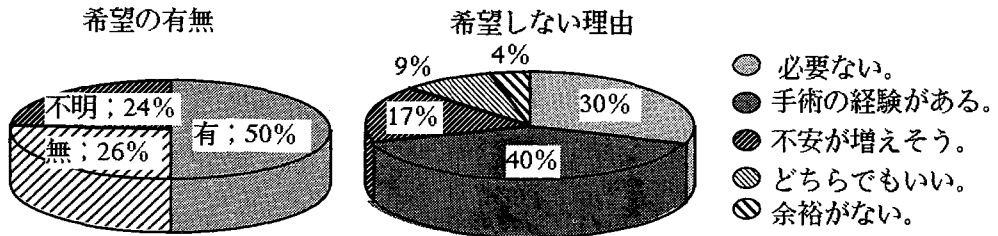
結果

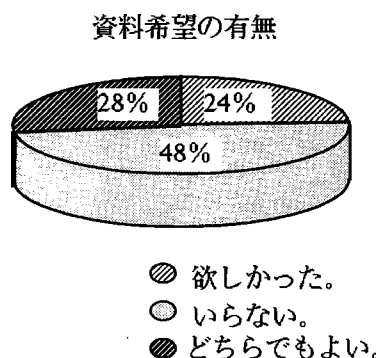
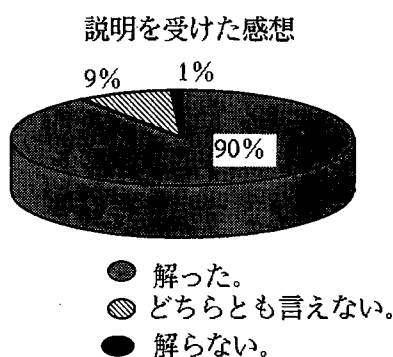
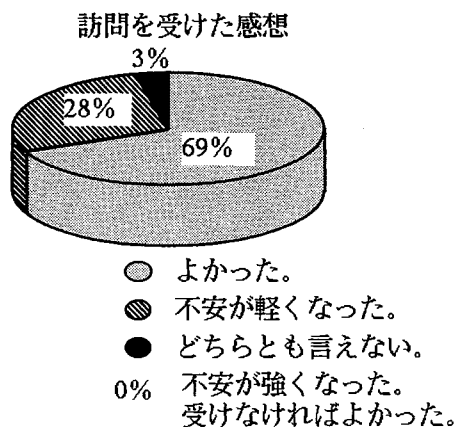
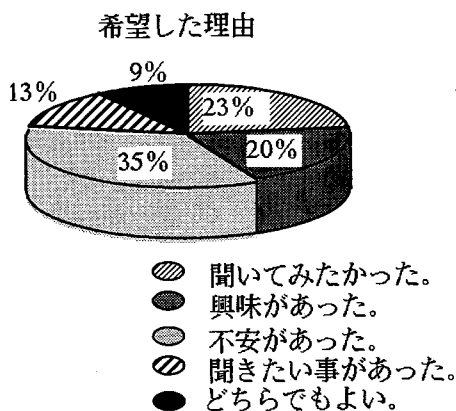
期間中296名 (男性165名、女性131名) が対象となった。年代別では70代、60代が多かった。術前訪問希望の有無は296名中「希望する」が148名 (50%)、「希望しない」が77名 (26%)、不明が71名 (24%) であった。全症例に対し訪問チェック表にて情報収集を行い、訪問を希望された患者に対し術前訪問を実施した。

術前訪問を行った148名中、術後アンケートが回収できたものは81名(55%)、未回収が67名(45%)であった。「希望しない」と答えた中で、希望しない理由を回収できたものは66名、未回収が11名であった。

訪問を希望された理由として『不安があったから』が31名と最も多く『訪問を受けて良かった、不安が軽くなった』という回答が聞かれた。イラストについては『見やすい』という回答が多かつ

たが、『小さすぎる、説明書きがあったほうが良い』という意見も見られた。“手元に残る資料が欲しかったですか？”の問いに対し、『いらない』が39名(48%)と半数近くを占めたが、『欲しかった』という回答も19名(24%)みられた。(重複回答あり) 訪問を希望されない理由としては『以前に手術の経験がある』が30名(40%)であり、他、『必要ない、不安が増えそう』等が上げられた。





考 察

イラストを用いた結果『見やすい』という意見が多かった事から、白黒の写真と比較して、柔らかいイメージのあるカラーを用いたファイル形式の方が良いものであったと考えられる。反面、少数意見ではあるが『小さすぎる、説明書きが欲しい』等が聴かれ、今回のファイル形式についても多くの患者のニーズに応えられる様改良していく必要があると考えられる。

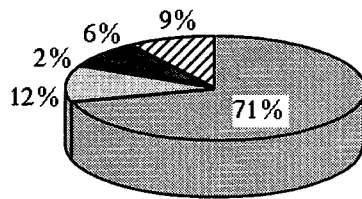
パンフレットからファイル形式へと変更したアンケートの結果、『資料はいらない』が39名(49%)と過半数近くに及んだ事から、患者にとって必ずしも資料が必要であるとは限らないであろう。しかしながら一方で、『資料が欲しい』との回答が19名(24%)あった事から二者併用に向けて、そのための資料作成についても検討していく必要があると考える。

本研究では術前訪問を画一的に行っていた頃と

比べ患者の積極的な態度が見受けられた。これは患者の理解を得てから実施するというやり方が、患者自身の理解力や参加意識を高められた結果と考える。『患者希望による術前訪問』を試みた事で、今までは訪問の対象となる全ての患者に術前訪問を行っていたが、実際は約3割の患者が希望していない事実より、その希望に添えたことも手術前の患者の精神の安定を図る上でも有用であったと考えられる。

患者は手術に対する不安だけではなく、知らない環境、更には知らないスタッフとの対面などからも“不安”は増大すると思われる。不安を少しでも軽減させるためにも訪問者と手術担当看護師が一致することが望ましいと考える。しかしながら、現状では人員不足・業務展開などから実施していくことが難しい。今後は病棟との連携をふまえて、訪問看護師と手術担当看護師を一致できるような業務体制を整える必要がある。

イラストの感想



- 見やすい。
- 大きさが丁度良い。
- 見づらい。
- 説明書きがほしい。
- ⊘ どちらとも言えない。

まとめ

- 1) 希望の有無を確認した訪問は、良い結果が得られた。
- 2) イラストを用いたファイル形式は、おおむね良好な結果が得られた。
- 3) 患者の意向に沿った資料を提供できる訪問について検討していく必要がある。
- 4) 訪問者と担当看護師が一致できる業務体制を整える必要がある。

おわりに

手術室看護では、患者と接する時間が短いため、術前訪問という限られた時間の中で少しでも患者の気持ちを理解し、援助へと結びつけていく必要がある。『不安の軽減』を進めるためにも同一スタッフが周手術期看護を実践することが望ましいであろう。試行錯誤の中でのファイル形式による訪問内容及び訪問方法の改善であったが、今後も病棟スタッフとの連携・協力を得ながら看護の充実をめざし取り組んでいきたい。

参考文献

- 1) 佐藤禮子：周手術期看護の現状と展望. 臨床看護. 19 (6) : 716-719, 1993
- 2) 佐藤禮子：手術患者のインフォームド・コンセント. 臨床看護. 19 (6) : 720-723, 1993
- 3) 吉田千寿：手術室における患者のアセスメントと計画立案・評価のポイント. 臨床看護. 19 (6) : 782-785, 1993
- 4) 加藤千賀子：術前訪問定着のための取り組み. OPEnursing' 99 春季増刊 : 215-222, 1999
- 5) 鶴田保子他：手術室見学を生かした術前訪問. OPEnursing' 99 春季増刊 : 223-229, 1999
- 6) 岡田慶子他：アルバム式パンフレットを用いた術前訪問. OPEnursing' Vol12, No4 : 91-95, 1996
- 7) 秋月圭子他：VTR、パンフレットを利用しての術前訪問の一考察. 手術医学. Vol17 (2) : 264-266, 1996
- 8) 明石美佐子他：効果的な術前訪問を実施するための看護婦の意識調査による考察手術医学 Vol19 (3) : 327-330, 1998
- 9) 山田みゆき他：手術患者の不安の軽減に対する術前訪問の有効性. 第27回成人看護 : 182-185, 1996
- 10) 大池美也子：術前訪問時の情報提供と面接方法. OPEnursing' 99 春季増刊 : 92-101, 1999
- 11) 宮園きよ子他：術前訪問を業務の中に定着させるための取り組み. 手術医学. 18 (2) : 126-130, 1997
- 12) 山川輝恵他：術前訪問パンフレットを作成して. 手術医学. 16 (3) : 499-451, 1995